

## 「TS<sub>ゼ</sub>絶頂魔女裁判（仮）」

#0

SE.. 近未来の繁華街を思わせる街の雑踏

SE.. 銃声と小さな爆発音。

SE.. モブの悲鳴・ガヤ・客引き（素材をつかいます）

SE.. アナタの足音

Ζ

朽ち果てて傾いた電柱、炎上したバイク。

ジヤンキーの襲撃を受けて、銃弾飛び交うドラッグストア。

路地に散らかって腐臭を漂わせている生体スクラップ。

「天然臓器高額買取」の文字が眩しいネオン看板。

蛍光色に輝くデジタルドラッグを売り捌く屋台。

輝く瞳をこちらに向けて、スパークする義足を震わせながら、

違法な記憶チップを売りつけようとしてくるホームレス。

そうかと思えば、体に4本も義手を増設した娼婦が近寄ってきて、

自分の店へ連れ込もうと、血の通っていない、

長くしなやかな腕を絡めてくる。

西暦2248年。ここはヒノモト国ヤブサメ街。

違法医療とヤブ医者の巣窟にして、国内でも有数のスラム街。

どうして、こんなところに来てしまったんだろう。

絡みついた娼婦の義手をなんとか振り解こうとしたしながら、

アナタは早くも後悔する。

金銭苦だつたとはいえ、

こんな地域でやつてる高額報酬の治験になんて、  
つられるべきじやなかつた、と。

義手の力が強くなり、

生身であるアナタの腕はミシミシと悲鳴を上げる。

痛みと、恐怖がやつてきて、体がすくむ。

声が出ない。

もうだめだ、

そう思つた瞬間。

視界に何かが飛び込んでくる。

SE・タタタタツと足音・近づいてくる

それは女の子。

白衣を着た、小柄な女の子。

こちらに駆けてきた、と同時に。

金髪が揺れ、彼女の体がふわりと宙に浮いたかと思うと。

長い足がしなり、空を切り、耳元をかすめる。

(蹴り飛ばす際の掛け声)

ミオ  
ぐらあっ！

N  
アナタに絡みついていた義手が、すうっと離れて、

その後、近くの壁に娼婦の体がめり込んで、  
金髪に黄緑色のインナーカラーが映えた

SE：衝突音ののち、バチバチと電流の流れる音  
にぶいおと  
鈍い音が、少し遅れて響きわたる。

おくれてひびき

N  
ミオ  
(安堵して一息)  
ふあああっ……。

間に合ったああっ。

(優しく)

お怪我はありませんか？

N  
ボブヘアの女の子が、何事もなかつたように

髪を耳にかけながら覗き込んでくる。  
のぞきこんで

金髪に黄緑色のインナーカラーが映えた

どこか猫を思わせるような美少女に急に顔を近づけられて、

アナタは助けてもらつたお礼を言うのも忘れて、  
わすれ

戸惑つてしまう。  
とまどつて

ミオ

ふふふつ。

無事みたいでよかったです。

(はつと気づいて)  
つて……そうだ。

申し遅れましたつ。

私。異世界観測センターの、ミオ・ハナムラと申しますつ。

この度はお迎えにあがりました。

アナタがうちの治験に協力してくださる方……

で、あつてますよね?

え?

そりやあ、そんな小綺麗な格好してたら、

うちの治験の人だらうなつて、

目星くらいはつきますよ。

この辺に出入りしている人間は、

お尋ね者、ハツカ一崩れ、医療関係者、

あとはジャンキーと娼婦くらいしかいません。

(笑う)

ふははつ♪

だいたいまともな格好はしていませんからね。

(たしなめるように)

まあ、それはさておき。

近くに来たらうちへ連絡するように、

募集要項には書いてあつたかと思うのですが?

自慢じやないですけど、ここは治安が悪いですから。

さつきの娼婦だつて、あの感じは

アナタをバラして臓器売買する気でいましたよ？

アナタのような名門大学に通つて いる、

エリート学生さんの臓器はマニアが多くて、

肉屋で高額取引されていますし。

くれぐれも、私から離れて

治療の前に肉片になるのだけはやめてくださいね。

私、スウイーニーな感じのトツドなお話とか、  
そういうのはあんまり好きじゃないですから。

SE：足音

SE：がちやつと戸の開く音

ミオ  
さあ着きましたよ。

ここが我らが異世界観測センターですっ。

ちよつと散らかつてはいますが、

人が歩く動線は確保していますので、

うまいこと避けて歩いてください。

そう言つてミオに案内されたのは、  
あんない

九龍城の「ことくビル」が複雑に絡まり合った集合住宅の一室だった。

そこそこ広い部屋の中には、怪しげな機械類がそこらじゅうに積まれている。

機械を踏まないよう気をつけながら、アナタは部屋の中心に置かれた  
医療用ポッドの前へ連れていかれる。

ミオ

なんの変哲もないポッドに見えるでしよう？  
へんてつ

けどこれが、これこそが異世界への渡航を可能にする装置なんですよ？  
いせかい とうこう

ふふふふん♪

——あつ、そういうえば。ひとつお聞きしたいことがあったのです。

失礼ですが、今回の治験のことは……。

どちらでご存知になられたのでしょうか？  
ごぞんじ

——ああ、やつぱり。

同じゼミの先輩から勧められて、ですか。  
せんぱい すすめ

(恐る恐る)

その先輩って、最近以前とどこか、性格とか  
変わつたりは……してませんでしたか？  
せんぱい

ああ、いえつ。こちらの話です。

お気になさらば。

それでは、すでにご存知かもしませんが、  
ごぞんじ

今回の ちけん 治験の内容について

簡単に説明させていただきますね♪

ここ、異世界観測センターでは、

私たちの住むこの世界の他に、

私たちがありとあらゆる選択肢に遭遇するたびに分岐して派生した、  
無数の並行世界、いわゆるパラレルワールドが存在すると仮定して、

日々、実験を行っています。

並行世界での人類はどうなっているのか？

分岐してしまったもしもの可能性の人類史が、

どのようになっているのか。

さぐり、仮定し、観測し、

私たちのいる世界で得ることができなかつた知識や技術を取り入れ、

収斂させることで、今いるこの世界にブーストをかけるのを目的としています。

言うなれば企業スペイのようなことを目論んでいるわけです。

と申しましても、今までそうした並行世界に干渉するのは  
現在の技術をもつてしても困難な話！

(得意げに)

——だったのですが、先日ついに！

できてしまつたのです。つくつてしまつたのですよ。

並行世界を観測し、渡航できるこの装置を！

まさに革新的発明！

ノーベル賞まつたなし！

——といいたいところなんですが。

装置はまだ開発段階かいはつだんかいでして。

作ったはいいのですが、

動作の安定には程遠い状態でして。  
職員も今は私しかいませんし……。

そこで、治験ちけんを募つたわけです。

二百年ほど前にも流行りましたが、  
ほら、いつの時代も、

異世界転生とか違う世界を冒險するお話はやりつて、

若いお方おかたには人気にんきでしよう?

まさにそれと同じ要領ようりょうですよ。

平たくいえば私が開発したこの装置は、

装置に繋がれ、臉まぶたを閉じて、

気がつけばアナタは並行世界へいこうせかいのアナタになっている。

そして、誰にあやしまれることもなく、

アナタは異世界いせかいを探索たんさくすることができるわけです。

今回は軽いテスト起動きどうですから。ほんのすこしの間、

異世界いせかいをのぞいてきて、感想へいこうせかいを教えていただけるだけで構いません。

ノルマもなし。

ちょっとした旅行氣分りょこうきぶんで参加さんかしていくべきです♪

素敵すてきだと思いません?

——ふふふっ♪

アナタなら、そう言つてくださると思つていました。  
どうか、よろしくお願ひいたしますね♪

SE：機械の操作音

ミオ それでは、異世界への旅立ちの前に、装置を調整しますので、

まずは服を脱いで、ポッドに入つてお待ちください。

ちょっと狭そうに見えるかもしだせんが、

中は広く作られていますので、横になると結構快適なんですよ？

かくいう私も、ときどき中で仮眠とつたりしてますし。

え？ 見られているのがはずかしい？

大丈夫ですよ。

ポッドに入るまで、私も目を閉じておきますから。

SE：衣ずれ

どうですか。お洋服、脱ぎ终わりましたか？

脱いだ服は横のカゴに入れてくださいね。

そろそろ大丈夫ですか？

目を開けますよ。いいですか。

ふふふ♪

ちゃんとポッドに入れたようですね。

ではポッドを閉鎖していきますね。

SE：金属製の蓋が閉まる音

ミオ

あーあ。

これで、もうポッドから出ることはできませんね♪

なんんて、大丈夫ですよ。

安全な作りになつていますからね♪

まずは、ポッドにパーカーフルオロカーボンをベースにした、

液体状のナノマシンを<sup>そぞぎこんで</sup>注ぎ込んでいきます。

ざつくりいうと、水中で呼吸したり、

健康状態を読み取ることができる、

とろつとした温泉みたいなものを流し込みます。

温かくて、気持ちよくて。

ベッドで寝るより、よく寝れる人もいるくらいなんですよ？

寝ながらお風呂に入れるようなものですから、

ちょっとお得ですよね♪

ふふふ♪

目に入るとちょっと沁みるので、

瞼<sup>まぶた</sup>を閉じて、肩<sup>かた</sup>の力を抜いて、ゆつたりと横になつていてくださいね♪。

SE：温泉の流れ込む音を後ろで流します

ミオ

どうですか♪？

少しぬるいかもしませんけど、

あたたかくて、気持ちいいですよね。

このまま中を満たしていきます。

(間)

うん、すっかり中がいっぱいになりましたね。

ああ、そうだ。

無理に息を止めたりしてはいけませんよ？

水中呼吸に移行する際に、

空気が肺に残つているとかえつて苦しいことになりますから。

少し怖いかもしませんが、

水中で、ゆっくりと深く呼吸をして。

体の中の空気を出し切つてしまいましょう。

落ち着いて、私の声に合わせて、

呼吸をしてみてください。

まずは、体から空気を絞り出すように、

息を長ーく、はき出していきましょう。

さあ、ふううう～っとはきだして～。

空気を出し切つて～。

SE：ゴボゴボと泡の音

ミオ

肺に残っていた大部分の空気が出ていきましたね。

あとはこのまま、深呼吸をして、

残った空気も出し切ってしまいましょう。

さあ、液体を飲み込むようなイメージで、

今度は息をすってえ〜。

あたたかな。

ゆっくりはいて〜。

液体が。

すってえ〜。

肺の中を。

はいてえ〜。

満たしていく。

すって〜。

温かくて。

はいて〜。

気持ちいい。

すって〜。

胸の奥が。

はいて〜。

だんだん温かくなっていく。

すってえ〜。

ここちいい。

はいてえ〜。

気持ちいい。

すってえ〜。

はいてえ〜。

いい感じです。

そのまま続けていてくださいね。

さてと。今度は、体から力を抜いて、

肺から取り込んだナノマシンを

全身に馴染ませていきましょうか。

指先を握り込んで、ぎゅうっと力を入れてみてください。

そう、ぎゅうううと、力を絞り出すような感じで。

3、2、1

……ゼロ。

はい。指先を開いて、力を抜いて。

どうですか？ 指先から力が抜けでて、

液体に体が溶けていくみたいでしょ？

さあ、もう一度。

残った力を全てを振り絞るように、

手足にぎゅううと力を入れて。

3、2、1

……ゼロ。

SE：フリー素材より耳元の吐息エフェクト混ぜます

ふわ〜っと力が抜けていく。

指先から、手足から、体から

力がするりと抜けていく。

さあ、もう一度。

体に残ったわずかな力まで、

ぜ〜んぶ絞り出すようにして、

手足にぎゅうううつと力をいれてえ〜つ。

3、2、1

……ゼロ。

SE：フリー素材より耳元の吐息エフェクト

力がふわ〜っと抜けていく。

開いた指先から、全身の力が抜けていく。

残っていた力が全て抜け出て、

体に力が入らない。

(ここらへん編集時にパン振ります)

温かい液体に包まれて、

気持ちよくて、  
ここちよくて。

なんだか頭もぼうつとしてくる。  
気持ちいい。

温かい。

気持ちいい。

温かい。

気持ちよくて、温かくて。

ぼうつとするのが心地いい。

温かくて、幸せな気持ちで、

満たされていく。

気持ちいい。温かい。幸せ。

温かい。気持ちいい。幸せ。

温かくて。優しい感覚に抱かれて。

頭がどんどん、ぼうつとしてくる。

温かくて。気持ちよくて。眠たくて。

今にもとろけてしまいそう。

考えるのがだんだん、面倒くさくなつていく。

気持ちいい。温かい。

気持ちいい。温かい。

気持ちいい。

ぼうつとするのが。

温かい。

なんだかとつても心地いい。

気持ちいい。

だんだん何にも。

温かい。

考えられなくなつていく。

気持ちいい。

意識が、

もう何も。

深いところへ。

考えられなくなつっていく。

沈んしづんでいく。温あたたかい。

沈んしづんでいく。心地あたたかいい。

ゆつくりと。温あたたかい。

沈んしづんでいく。ここちい。

沈んしづんでいく。暗くらい。

沈んしづんでいく。沈んしづんでいく。深いところへ。

沈んしづんでいく。沈んしづんでいく。深いところへ。

沈んしづんでいくのが心地あたたかいい。

沈んしづんでいく。温あたたかい。

沈んしづんでいく。心地あたたかいい。

意識の深いしきく。暗くらく。温あたたかく。ここちのよい、みなそこへ。

ゆらゆらと。

沈んしづんでいく。

ゆらゆら。ゆらゆら。

沈んしづんでいく。

沈んしづんでいく。

沈んしづんでいく。

アナタは意識の底そこへたどり着く。

(FO)

そこは温かくて、幸せな場所。

おかあさんに優しく抱きしめられたように、  
心地よくて、気持ちのいい場所。

ただそこにいるだけで、幸せな気持ちに満ちていく。

ふしき  
不思議な場所。

SE：機械の操作音・水のたゆたう音

ミオ 準備できたみたいですね。

それでは異世界渡航システム「クララ」起動します。

どうか、良い旅を。

SE：機械の動作音

N 暗く、暗く。深い、深い。

いしき 意識のそこに穴が開く。

アナタは穴に吸い込まれるようにして、

さらにお深くへと沈んでいく。

しづんでいく。

ゆらゆら。ゆらゆら。ゆらゆら。ゆらゆら。

ゆらゆら。ゆらゆら。

しづんでいく。

しづんでいく。しづんでいく。しづんでいく。

しづんでいく。しづんでいく。しづんでいく。

しづんでいく。

しづんでいく。

深く深く。沈んでいくほど。

ぽかぽか温かくなつていく。

沈んでいく。ぽかぽか。沈んでいく。ぽかぽか。

ゆらゆら。ぽかぽか。ゆらゆら。ぽかぽか。

深く、深く。沈むほど。

幸せな気持ちがあふれてくる。

どんどん気持ちよくなつてくる。

沈む。沈む。沈んでいく。

深く、あたたかで、幸せで、気持ちのいい場所へ。

沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。

深く。深く。沈みながら。

アナタは穴の奥深くから、光が差し込んでいるのに気づく。

それは出口。

それは旅の目的地。

どこか懐かしい。

柔らかで、あたたかな光に誘われるようにして。

アナタは深く、深くへ沈んでいく。

沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。

沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。

沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。

沈んで。沈んで。沈んで。沈んで。

アナタは気づく。

アナタは沈みながら、浮かび上がっている。

心地の良い。温かな光へむかって、  
いつの間にか浮かび上がっている。

上と下とが回転し、渦巻いて。  
うえとした うずまいて

ふわふわと浮かび上がる。

温かで、やさしくて  
あたたか

懐かしい光のなかへ、吸い込まれていく。

ふわふわ。ふわふわ。ふわふわ。ふわふわ。

ふわふわ。光の中に。

ふわふわ。ぼんやりと人の影があらわれる。

それは裸の女の子。  
はだか

華奢な体で、茶髪をツインテールにした。  
きやしゃ からだ ちやぱつ

小さくて可愛い女の子。

ふわふわ。ふわふわ。

彼女に吸い寄せられていく。

ふわふわ。ふわふわ。それがとつても心地いい。

ふわふわ。ふわふわ。

近づくにつれ、彼女の姿がはつきりしてくる。

ふわふわ。ふわふわ。

頭から生えた、大きな猫耳。  
ねこみみ

ふわふわ。

柔らかそうな毛並みにつつまれた体。  
やわらか けなみ からだ

毛並みに覆われた、形のいい大きなおっぱい。

ふわふわ。

長く可愛らしい尻尾。  
しつぽ

ふわふわ。

大きくて、長い睫毛が印象的な目元。  
まつげ　いんしょうてき　めもと

琥珀色の瞳。縦長の瞳孔。  
こはくいろ　ひとみ　たてなが　どうこう。

ふわふわ。

美しい瞳に見つめられ、アナタはドキドキしてしまう。

三毛猫のような体の模様。小さな口元。  
みけねこ　からだ　もよう　くちもど。

ふわふわ。

お日様のような優しい香り。

ふわふわ。

彼女は猫の女の子。

ふわふわ。

肉球のある彼女の手が、

アナタに触れて、そつと囁く。

(少し響くようなエフェクト入れるかもです)

アナタはアナタ。アナタはアタシ。  
アナタはアタシ。アナタはアナタ。  
アナタはアタシ。アナタはアタシ。  
アナタはアナタ。アナタはアナタ。アナタはアナタ。

だから何にも遠慮しなくていい。

アタシはアナタだから、アナタの願いをしつてている。  
アナタは女の子になりたい男の子。

女の子になつてみたくてたまらない。

それも小さくて可愛い、ケモノの女の子になつて。

女の子とエッチなことをたくさんしたい、

そう思つているんでしょう？

アタシみたいな女の子になつてみたい。

そう願つてゐるんでしょうか？

アタシはアナタ。アナタはアタシ。

だから、アタシの体からだをあげましよう。

アナタの体からだとアタシの体からだ。

アタシの人生とアナタの人生。

ぜーんぶ交換こうかんしてしまいましょう。

アタシの願いを叶えてあげる。

だってアタシもアナタみたいになつてみたいから。  
アナタもアタシだから同じ気持ちでしよう?  
もしも、アタシみたいな女の子になれたら。

大きなおっぱいと、ふわふわの体毛たいもう、

可愛くて敏感びんかんで小さくて非力ひりきな体からだで、

自分より大きな体からだになつた女の子に、

押さえつけられて、

えっちなことをされちゃつたら。

そんなことを想像するだけで、

胸がドキドキしちゃうでしよう?

しつてるよ。

だってアナタはアタシだから。

アナタはアタシ。アタシはアナタ。

アナタは誰? アナタはアタシ。

アナタは誰? アナタはアタシ。

アナタは誰? アナタはこれからアタシになるの。

だってアナタはアナタだし。

アナタはアタシになりたいんだから。

アタシになるのは当たり前で自然なこと。

そうでしょう?

だからアタシたちの全部をとりかえましょう。

いいですよね?

今からカウントダウンしていきます。

ゼロになると、

アナタは二毛猫の可愛い女の子。

ただし発情すると性欲に支配され、

理性がなくなる女の子になり、

幸せを感じながら絶頂ぜつちょうしてしまいます。

5

女の子の体からだにアナタの意識いしきが、  
すうっと吸い込まれてしまう。

少しして、着ぐるみをきているような、  
不思議な感覚がして、

アナタの背筋せすじをぞくぞくとした快感が突き抜けていく。  
これから女の子になってしまふ。

本当にケモノの女の子になってしまふ。

そんな予感がして、

不安と期待と嬉しさが、溢あふれてくる。

アナタの頭の中に、白い光の玉がふわりと生まれる。

4

体からだの感覚が伝わってくる。

おおきな胸の重さを胸元むなもとに感じる。

顔の横についていた耳が、

人間にんげんの時よりずっと大きくなり、

頭の上方についているのがはつきりわかる。

口の中の歯が尖り、  
とがり

舌が少しづらついているのがわかる。

からだ  
体に生えた柔らかな毛並みが、  
やわらか  
けなみ

感情で大きく動くのがわかる。

手足の先が少し膨らみ、  
さき  
ふくらみ

ゆびさき  
指先には爪と柔らかくてぷにぷにの肉球があるのがわかる。  
やわらか  
にくきゅう

びんかん  
敏感な長い尻尾が、  
しっぽ

お尻の少し上から生えているのがわかる。

ツインテールに結った長い髪が、  
ゆつた

さらさらと頬に当たるのがわかる。

たいもう  
体毛に隠された股間には、  
こかん

女の子の割れ目ができているのがわかる。  
われめ

おなか  
お腹の奥には子供を産むための子宮があり、  
しきゅう

女性ホルモンをたっぷり生み出す、  
らんそう

卵巣があるのがわかつてしまう。

自分の体が猫の女の子になってしまったのを、  
からだ  
理解する。

アナタの中の光の玉が、だんだん大きくなっていく。

——アタシの記憶をうけとつて。

体の中<sup>からだ</sup>に何かが流れ込んでくる。

それは二毛猫<sup>みけねこ</sup>の女の子としての記憶<sup>きおく</sup>。

アナタは幼い時、家の柱<sup>いえ はしら</sup>で爪研ぎ<sup>つめとき</sup>をして、お母さんに怒られた。

アナタは幼馴染<sup>おきななじみ</sup>の女の子に恋をしたけどぶられてしまった。

アナタは成長すると、すぐに発情<sup>はつじょう</sup>する体質<sup>たいしつ</sup>になってしまった。

その体質<sup>たいしつ</sup>のせいで、いつでもどこでもムラムラしちゃうから。  
ぜんぜん勉強<sup>まいきょう</sup>に集中<sup>ちゅうじゅん</sup>することなんてできなくて、

アナタはどんどん性欲<sup>おぼれ</sup>に溺れて、落ちこぼれのギャルになってしまった。

アナタが好きなのは尻尾<sup>しりぽ</sup>を使つたオナニーで、毎日している。

アナタはエッチが好きですきでたまらなくて。  
アナタは女の子がすきですきでたまらなくて。

女の子が好きな女性向けの、レズビアン風俗<sup>とりえ</sup>で働いている。

アナタは女の子同士でセックスすることしか取り柄がない、

おばかでえっちな、三毛猫<sup>みけねこ</sup>の女の子。

発情<sup>はつじょう</sup>すると、脳みそ空っぽになっちゃって、

アイキューはゼロ。

エッチなこと以外何も考えられなくなる、  
どうしようもない女の子。

ちがう、そんなはずはない。本当の自分はちがうのに。  
どこかでそう感じるのに。

アナタは頭がぼうつとして、なぜそう感じるのかわからない。

ただ、自分の記憶きおくまでもが、三毛猫の女の子に染められていく。  
その事実が、なんだかとつても気持ちいい。

三毛猫の女の子の記憶きおくしか思い出せなくなつていくのが心地いい。  
頭の中の光の玉が、さらに大きくなつていく。

## 2

アナタの体からだが熱くなる。

しつぽが疼いてひくひくする。

知らないはずの、

「いつも」のオナニーをしたくてたまらなくなる。

尻尾しりぽの先端せんたんを硬くして、

自分の割れ目にそつと這わせる。

興奮こうふんで逆立さかだつった毛が敏感びんかんな割れ目に触れる。

脇の下わきのしたを筆ふでで撫なででられたくすぐったさを

百倍ひやくばいにしたような快感が溢あふれてくる。

触れるたびに、体と意識がふわふわして、気持ちよくなつていく。  
すりすり。すりすり。

だんだんお腹おなかのあたりが熱くなり、

しつぽを動かすのが止まらなくなる。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

クセになる。クセになつちやう。

ほんとはそんなのダメなのに。

しつぽで割れ目をすりすりするのがクセになつちやう。

アナタの中の光の玉が、チカチカと点滅し始める。

しつぽの動きが早くなる。

それに合わせて体からだが自然と動いてしまう。

腰こしは揺れ、

指は大きな胸をもみしだく。

快感が、体からだの感覺が、

さつきよりもずっと鮮明せんめいに感じられる。

記憶きおくが、女の子としての記憶きおくが。

より、はつきりしてくる。

女子校じょしこうに通かよつっていたこと。初めての生理せいり。

しつぽにお気に入りのアクセサリーをつけていて、無くしたこと。

体からだが小さいのがコンプレックスなこと。

この体からだにとつての当たり前が押し寄せてくる。

変わつていく。変わつてしまふ。

変わつちやう。

体からだちつちやくて、非力で、おっぱい大きいメスケモになつちやう。

エツチ大好きはつじょうですぐに発情はつじょうするおバカなにやんこに染そまつまつちやう。

変わる。変わつてしまふ。

変わつちやうのが気持ちよくて。

うれしくて。

ほんとはメスケモじやなかつたのに。

そう思うだけで、快感がぞくぞく湧わきあがつき上がつてくる。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

メスケモになるのが気持ちいい。

本当は男の子だったのに。

おバカなメスケモに染まつちやうのが気持ちいい。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

からだ 体も、記憶も、ぜんぶ変わつちやうのが気持ちいい。

もうイキそう。いつてしまいそう。

おばかになつちやう。

メスケモになつちやう。

メスケモとしていつちやいそう。

手も足も、尻尾も、全身から、

いやらしいメスケモの匂いを漂わせてる。

それはもうアナタの匂い。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

頭の中の光の玉の点滅が、早くなる。

ゼロ

ぜつちょう 絶頂する。

頭の中の光の玉が、爆発する。

快感の爆風が巻き起こり、アナタの意識を吹き飛ばす。

気持ちよくて、幸せで。

嬉しくて。気持ちよくて。幸せで。気持ちよくて。

頭のなかが真っ白になる。

ぜつちょう 絶頂する。

腰が揺れる。頭が揺れる。耳がぴくぴく痙攣しちやう。

いく。イクイクイクイク♪

絶頂する。絶頂する。絶頂する。

絶頂する。

絶頂する。

いしき とぎれ まっしろ  
意識が途切れて、真っ白で気持ちいい世界へ沈んでいく。

卷之三

沈んでいく。気持ちはいい。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。沈んでいく。(FO)。

ようこそ裁判所へ

N

ぬれた布団。

あせばんだからだ。  
汗ばんだ体。

からだ  
に張り付く、長い髪。

むせそなほど溢れた、メスの体臭。

ぐつたりとした重い体を動かして、

アナタはゆっくりと瞼をひらく。

シャンデリア風の照明。

天蓋付きのベッド。

薄いピンク色の壁紙が目に入る。

ここはお客様とよく行くラブホテルだと、アナタは気づく。女の子受けがいいから、よく使っている。

そんなことを、なぜか自然と思い出しながら、

あたりを見回す。

お客様らしい、

可愛いウサギの女の子がどこかに電話をかけている。

漏れでている言葉から、電話の相手はどうやら警察。

寝起きでぼうっとしていて、

どこか人ごとのように考えていたが、

警察に通報され、連行されたのはアナタだった。

(間)

SE.. 鉄製ドアの開く音

SE.. 足音

ニ

アナタは訳わけもわからないまま、

裁判所さいばんしょに連行される。

そこは異端審問所いたんしんもんじょと呼ばれる特別な裁判所さいばんしょ。

アナタは意識いしきを取り戻す前、お客様さんがそばにいるのに

自分が

本当は人間にんげんの男だ、

と寝言ねごとでつぶやいてしまったのだ、  
と警察官から聞かされる。

自分が人間だと語るのは重罪じゆうざい。

人間にんげんはかつてアナタたちケモノの民たみを、

絶滅させようとした異端いたんの存在。

そんなものであるはずがない。

そんなことを言うはずがない。

もしそんなことを言つてしまったら、

人間擁護派にんげんよう はの裏切り者いたんししゃ、異端者いたんしゃとして

こうして異端審問いたんしんもんにかけられてしまうのだから。

と、そこまで考えて、  
アナタはハツとする。

SE .. ノイズ音

突然、記憶きおくがフラツシュバックする。

有名大学。大学生。入れ替わり。

アナタはメスケモじやなかつた。

少し前まで、男おとこだつた。人間にんげんのオスだつたのを隠おぼるげに思い出す。

どんな男おとこだつたのか、

もうほんやりとしか思い出せないけど、

確かにオスの人間にんげんだつた。

アナタの背筋せすじを冷ひやあせや汗あせがつたう。

もしも、元人間にんげんなんてバレてしまつたら、

アナタは、処刑しょけいされてしまふだろう。

アナタは服を脱ぬがされ、

証言台しょうげんだいへ、案内あんないされる。

裁判官さいばんかん、陪審員ばいしんいん、傍聴席ぼうちょうせきのケモノたちのいやらしい視線しせんが、

ねつとりとアナタの体からだに注そそがれる。

異端審問いたんしんもんでの証言。

それは、自分がケモノであることを証明するための救済措置きゅうじゅさいそち。

そして、それはある種の見せ物。

証人とケモノらしく激しいエッチをして、

その場にいるみんなを満足させなくてはならない。

それがアナタの住む世界の常識。

ニ

しょうにんせき  
証人席に、長身の猫の獣人が現れる。

金髪に、螢光グリーンのインナーカラーのショートカット。

彼女はミオ。アナタのルームメイトであり、彼女。

本当は初対面なのに、

アナタの中に、ミオとの思い出がつぎつぎに溢れ出す。

一緒にちょっと過激な下着を選んだこと。

飲み屋で男に絡まれた時に助けてくれたこと。

もともとは風俗のお客さんで、こっそり付き合っていたこと。

と同時に、アナタの人間時代の記憶が再びフラツシュバックする。

治験。アナタより背の低い、白衣姿の人間のミオ。

この平行世界におけるミオが彼女だと、  
アナタは直感的に理解する。

ミオ

どうしたんです？ ぼうっとしちゃって。

（少し楽しそうに）

ほら、アナタが人間のオスなんかじやなくて、

心の底から紛れもないメスケモだつて、

皆さんにちゃんと証明しなくちやいけませんよ？

ミオが服を脱ぎ捨て、アナタのそばにやつてくる。

入り乱れる記憶に困惑しながら、

アナタはミオの毛並みを見つめる。

雪のように白い毛並み。

ニ

雨に似た少し甘い体の匂い。

知らないはずなのに、胸の鼓動が早くなる。

からだ  
体がじんわり熱くなる。

おなか  
お腹の奥も腰も、乳首も、尻尾も。

ミオとの出会いを待ち侘びていたかのように、全身が疼き始める。

何度も愛し合つた。体が覚えている。

ミオ

つふふふ♪

まだなにもしてないのに♪

ごくがとちくび  
極太乳首ぽつきさせて、

そんなに切ない表情しちやつて。

ひよつとして、みんなに見られて緊張してるんですか？

それとも、私に会えたのが嬉しくて、

はつじょう  
発情しちゃいました？

我慢が苦手ですものね？

その可愛い胸も、お尻も、尻尾も

私に、可愛いがつて欲しくて、

ぴくぴくしてますよ♪

ニ

ミオの指先がアナタの下腹部を、  
からだかふくぶ

下から上へそつとなぞるふりをする。

触れられてもいないのに、  
ふれ

体に寒気に似た快感が走つて、  
からださむけ

頭がぼうっと痺れてしまふ。

お腹の奥がきゅうっと切なくなつて、  
おなかせつなく

足が内股になつてしまふ。  
うちまた

ミオ

(甘く囁く)

だから、まだ。さわってませんつてば。

そのいやらしい乳首も、  
さそくちくび

柄がマダラで誘うよくなしつぽも、  
がらさそう

先端の毛がちょこんとのびた猫耳も。  
せんたんねこみみ

女の子の部分も、ふとももも。

ニ

言葉で指摘された箇所が、  
かしょ

燃えるように熱くなる。敏感になつていく。  
まひびんかん

気持ちよくなりたい。

ふれて  
触れて欲しい。  
ふれ

からだ  
体に切なさがあふれていく。  
せつなさ

周りの目があることなんて、麻痺したみたいに感じない。  
まひ

ミオの指が欲しくて、欲しくて、たまらなくなる。  
ミオの指が欲しくて、欲しくて、たまらなくて。

苦しくて、苦しくて。体が乾いて。  
からだかわいて。

自然と口が、物欲しそうに開いてしまう。  
ものほしそうひらいて

本当に、どうしようもない三毛猫。  
みけねこ

けど、本能にすぐ支配されちゃう、  
そういうちょっとバカなどころ。  
私は好き♪

(キス音)

んつ♪ ちゅうつ♪ じゅるうつ♪ れろつ♪  
ちゅつ♪ んあつ♪ んぶつ♪ れろおつ♪  
ちゅううつ♪ ちゅ♪ んあつ♪ れろおつ♪  
んはつ♪ んちゅつ♪ れろつ♪ んはあつ♪

(ここ編集でキス音と被せます)

ミオの舌が、口の中に押し入ってくる。  
おしゃって

ざらついた猫の舌同士が、絡み合い、こすれあう。  
ねこのしたどうし  
からみあい

くちのなか うえのほう  
口の中の上の方を、舌の裏側を。

弱いところを、舐められて。蹂躪されて。  
なめ じゆうりん

舌が動くたびに、思考が飛んで。

意識が白む。  
いしき しらむ

カクカク頭が揺れそうになるのを、  
ミオの腕で押さえ込まれる。

逃げ場のない快感で、頭の中が塗りつぶされていく。  
ぬり

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

どくん。と心臓が跳ね上がる。

呼吸が一瞬止まり、

すぐに狂おしいほどの渴きと、

全身を焼き尽くす、快感の熱がやつてくる。

気持ちいい。欲しい。

気持ちいい。苦しい。

もっと気持ちよくなりたい。もっと欲しい。

どうしようもなく苦しくて、

切なくて。

涙で視界が滲み。体毛が逆立つ。

発情する。

気持ちよくなること以外、もう何も考えられなくなる。

発情する。

人間らしい思考ができなくなる。

発情する。

もうアナタは、性欲を満たすことしか頭にない。

ただの動物。

発情する。

アナタはもう、人の言葉も話せなくなる。

にやあにやあエッチな声でなくことしかできなくなる。

発情する。発情する。発情する。発情する。発情する。

エッチな鳴き声で甘えたり喘ぐことしかできなくなる。

ミオ

キスだけでここまで発情するなんて、  
本当にしようがない子。

続々がして欲しいんでしょう？

苦しいんでしょう？

でもこれは裁判だから、

まずはちゃんと弁明しなくちゃね。

べんめいって意味わかる??

むずかしくてわかんないね。

いいよ、鳴き声の今までいいから、  
あっちにいるえらそなお姉さんにむかって、  
私の言う言葉をくりかえしてね♪

「私は、人間のオスなんかじやありません」

ほら言えるかな？

一緒に言つてあげるから、ちゃんとにやんにやん鳴いてね♪

「わたしは。にんげんの。おすなんかじや。ありません」

とってもむずかしかったけど言えたね♪

えらいえらい♪

Ｚ

頭を撫でられて、嬉しくて気持ちよくて、

腰が疼いて、愛液をだらだら割れ目からこぼしてしまう。

ミオ

ふふふ♪

こんなに愛液垂れ流しててる子が、

オスな訳ないですよね、裁判長♪

ええ、そうですね。

法廷を汚してはいけませんものね♪

(途中からクチュ音系などの煽り素材被せます)  
ミオがかがみ込んで、アナタの足を押し広げる。

緩み切った割れ目にキスされる。

口元のふさふさの毛が当たって、  
アナタの腰が小さく跳ねる。

腰が浮いた拍子に、ざらついた舌が押し込まれ、  
割れ目の中に潜り込む。

わ  
れ  
め  
わ  
れ  
め  
も  
ぐ  
り  
こ  
む

ぬぷぬぷと、蜜をかぎだすように舌が動く。

びんかん  
敏感なヒダがかきならされて、

おなか  
熱いお腹の内側から、

とかされ  
溶かされるような快感が、

みつ  
おしよせる  
波となつて押し寄せる。

なみ  
ねつねつぱいあいえき  
熱っぽい愛液が溢れ、

ぬらして  
びちやびちやとミオの顔を濡らしていく。

気持ちいい、あふれる。

気持ちいい。あふれる。

くずれ  
腰が、うねつてバランスが崩れて、

アナタは法廷の床に、倒れ込む。

倒れた後も舌の動きはとまらない。

ほんの束の間、愛液で濡れた髪をかきあげて、

ミオはまた割れ目に貪欲に吸い付いて、離れない。

わ  
れ  
め  
あ  
い  
え  
き  
愛液を啜り、ごくりと飲み込む音がする。

舌で、唇で。股間こかんが鋭い舌先で突かれ、激しく、優しく責められる。

股間こかんから、電気ののような快感がはしり抜けていく。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

舌で、割れ目われめのフチを舐め回されるの気持ちいい。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

お腹おなかの中の熱くてざらついたとこ舐められるのが気持ちいい。

気持ちいい、気持ちいい、気持ちいい、気持ちいい、女の子気持ちいい。気持ちいい。

気持ちよくて、体からだが痙攣けいれんし始める。

ヒザが震えふるえ、お腹おなかがうねり、しっぽがビクビクしてしまった。

もつと。もつと。もつと。もつと。

本能に突き動かされて、

息絶え絶えに、か細い喘ぎ声かほそいあえぎごえを上げながら、

更なる快感を求めてしまう。

指が疼うずいて、

アナタは自分の敏感な乳首びんかんちくびを弄り始める。

震える指で転がすようにつまみ、

下から弾はじいてては、時々爪つめを食い込ませて、ひねる。

体からだが自然と覚えている。

どうすれば気持ちいいのか知っている。

快感が、股間こかんからも胸からも、

湧き出わきでてきて、あふれてきて、押し寄せてきて

(ここ編集で少しエフェクトかけるかもしません)

頭がおかしくなつてしまいそう。

おかしくなる。おかしくなる。おかしくなる。  
おかしくなる。おかしくなる。おかしくなる。

おかしくなつちやうのに。

爪の先で乳首ちくびをカリカリと刺激しげきして、気持ちよくなるのを止められない。

気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

いく、いつちやう。

愛液あいえきドバードバぶちまけて、

もういつちやう。

頭の中真まっしろつ白まっしろで、

頭の中真まっしろつ白まっしろになつて、

気持ちいい真まっしろつ白まっしろな世界へ。

いつちやう。出ちやう。もういつちやう。

イクイクイクイク♪ イクイクイクイク♪

脳やが焼きき切れきて、絶頂ぜつとうしちやう。

イクイクイクイク♪ イクイクイクイク♪

絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。

絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。絶頂ぜつとうする。

(FO)

SE：ぺちぺち頬を叩く音

ミオ ちょっと、まだ裁判の途中ですよ？

おきてください。

ミオ

ミオの声がして、アナタは絶頂の余韻の残った体をなんとか起こす。

みんなの前でみんなに簡単に発情して絶頂しちゃうなんて。  
それでも私の彼女ですか？

少しは堪える努力をしてもらわないと尻軽だと思われますよ♪

ふふふ♪

(思い出して)

ああ、そうです。

アナタが絶頂して気を失つている間に。

陪審員、あっちの方にいる人たちから、

アナタのクリトリスが少し大きくみえる。

極小のペニスの可能性がある、

との意見がでまして。

皆さんの前で、クリトリスでオナニーしていただけますか？

いつもやつてるみたいに自分でしたほうが、  
クリトリスのオナニーに慣れてる感じがでて、

人間のオスなんかじゃないっていうアピールになりますからね♪  
さあ、どうぞ。こちらに横になつて。

少し馬鹿げた要求だと思いますながらも、

頭がふわふわ、ぼんやりして思考がまとまらない。  
アナタは言われるままに

ミ

しょうげんだい  
証言台の近くに用意された、ソファの上で横になる。

仰向けになり、あたりを見回せば、  
あおむけ

視界に入る、あらゆる場所から情欲にまみれた視線をあびせられている。

今更ながら、恥ずかしさがこみあげてくる。  
いまさら

ミオ  
ふふふ♪

見られているのが恥ずかしいなら、  
私を見て、オナニーしてみたらどうです?  
アナタは私のものなんですから。  
私だけのために、オナニーしてくれますよね♪

N  
ミオのしつぽがアナタの乳首を強く。  
ちくび はじく

いつたばかりの、まだ敏感な体に快感の波紋が広がっていく。  
ひんかん からだ はもん

胸が、手足が、指先が、耳が、しつぽが。  
ゆびさき からだ はじく

体毛が逆立つて、  
たいもう さかだつて

体が熱を帯びていく。  
からだ ねつをおび

発情する。  
はつじょう

体が鋭敏になり、思考が意識が、性欲に塗りつぶされていく。  
からだ いしき ぬり

発情する。  
はつじょう

気持ちよくなりたい。

快感を求める気持ちが、体の中<sup>からだ</sup>で渴<sup>かわ</sup>きに似た苦しみとなつて現れる。

はつじょう  
発情する。

気持ちよくなりたい。気持ちよくなりたい。

満たしたい。満たしたい。満たしたい。満たしたい。満たしたい。

苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。苦しい。

はつじょう  
発情する。

アナタは性欲に支配されたケモノ。  
人の言葉がしやべれなくなる。

はつじょう  
発情する。

性欲に<sup>からだ</sup>体<sup>あやつられ</sup>を操<sup>あやつら</sup>れるまま、

アナタはまだぐつしより濡<sup>ぬれ</sup>れている、割れ目に指を伸ばしていく。

あいえき  
愛液<sup>あいえき</sup>をすくいとり、

入り口の淵<sup>ふち</sup>と、クリトリスの隙間<sup>すきま</sup>へ指を這わせ、

指の腹<sup>はら</sup>で撫<sup>なで</sup>で回<sup>まわ</sup>す。

ぬれたゆびさき<sup>わかれめ</sup>やわらか<sup>まわり</sup>な毛<sup>は</sup>が、

クリトリスと割れ目の周り<sup>まわり</sup>をゆるやかに<sup>しげき</sup>刺激<sup>はわせ</sup>する。

深く、鋭い快感が、喜びが、体を突き抜けていく。

足の指先<sup>ゆびさき</sup>がピンと伸び、腰<sup>ひわい</sup>が卑猥<sup>ふるえ</sup>に震えてしまう。

はつじょう  
発情する。

指の角度を変えながら、撫でるたびに。

のこりかす  
残り津のようないせい  
な理性までもが燃えはてて、

もえ  
強い快感へ変わっていく。

はつじょう  
発情する。

ほそめる  
目を細めるミオを見つめながら、

とりつかれ  
取り憑かれたように指を動かす。

はさみこむ  
2本の指を伸ばして、クリトリスを挟み込む。

びんかん  
敏感なクリトリスを守る、包皮をこする。

ゆびぜんたい  
指全体を使って、長いストロークで、こするたび。

先ほどよりも、はつきりとした電撃のような快感が、  
大きな波となってやってくる。

ぬるぬる。すりすり。ぬるぬる。すりすり。

ふるえ  
鳴き声が、喘ぎ声が、快感で震えて漏れ始める。

もれはじめる  
ぬるぬる。すりすり。ぬるぬる。すりすり。

はつじょう  
発情する。

指を動かしていたはずみで、

ほうひ  
クリトリスの包皮が剥けてしまう。

しんじゅ  
真珠のような本体が剥き出しになり、

むきだし  
指の毛がかすめる。

快感が、意識を一瞬吹き飛ばす。

軽くイク。

体がうねり、背中がのけぞり、体から力が抜けていく。

ミオ  
よくできました。

けど、私ももう我慢できません♪

ミオ  
いつたばかりのクリトリスを、

ミオが、ざらついた猫の舌で、舐め回す。

さつき毛が触れただけでいつてしまつた場所を、

何度も、何度も、舐められる。

そうかと思えば唇で、優しく吸われ、ねぶられる。

そのたびに、

鋭い斬撃のような快感が、

背筋を、頭を、意識を貫き、斬りつけ、

粉々にする。

意識が飛ぶ。

頭の中が真っ白になる。

絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。

ミオ  
美味しい♪ 美味しい♪ 美味しいよお♪

ニ

くちもと あいえき たらし ながら、  
口元から愛液を垂らしながら、

かいらく とろけたひとみ  
快樂に蕩けた瞳が向けられて、

それだけで、

アナタは絶頂しながら嬉しくなる。

ミオ、ミオミオミオ。ミオミオミオ。

ぜつちょう ぜつちょう ぜつちょう ぜつちょう  
絶頂する。絶頂する。絶頂する。絶頂する。

ミオ 大好き♪

#4 蛇と猫

(恍惚としながら)

ミオ ほら、おきて。

まだ裁判中なんですからあ♪

SE .. 触手音

ニ

飛んでいた意識がもどり、

アナタはミオの方を向いて、

息を呑む。

ミオ

裁判長がね♪

これを使つたセックスを見せたら、  
無罪してくれるんですつて♪

裸になつたミオの股間から、

ゼリー状の、太くて大きな触手のようなおちんちんが生えている。

それだけじゃない。

自分の意思を持っているかのように、

ぐねぐねと、生き物のようにのたうつている。

ミオ 太っ腹ですよね♪

最新のエッチグッズを用意してくれるなんて♪  
こういうのも、好きでしょう?

ミオ ミオがゆつくりと近づいてくる。

近づくほどに、そのおちんちんの大きさが、  
かなり大きいことを思い知らされる。

小さなアナタの体からだが受け入れられるのか、  
わからぬほどの大きさに、

アナタは背徳的はいとくべきな興奮こうふんを覚えながらも、

少しだけ怖くなる。

ミオ 悪い?

怖いですよね。

こんな大きいおもちゃ使つたことないですね♪

それじゃあ、不安を取り除いてあげましょう。

ミオ

ミオが小さな袋をどこからか取り出したかと思うと  
牙きばで破やぶき、その中身をぶちまける。

粉末状ふんまつじょうのものが舞まいい散ちつつて、

アナタとミオを包み込む。

甘い香り。せつない切ない香り。

吸い込んだ途端とたん、

全身に、マグマが流れこんだように熱くなる。  
これはまたたび。

猫の獣人じゅうじんにとつての強力な媚薬びやく。

息をしているだけで、幸せな気持ちになつてくる。  
さつきまであつた不安な気持ちが、  
幸福感に溶けていく、

液体みたいに、

ふにやふにやになつた体からだがソファに沈む。

甘くて、幸せで、気持ちよくて、ふわふわで。

切なくて。苦しくて。

何もしていらないのに、壊れた蛇口こわれたじやぐちみたいに愛液あいえきがあふれてくる。

甘い。苦しい。嬉しい。切ない。

えつちがしたくてたまらない。

けれど、本能に突き動かされる発情はつじょうとは違つて、

全てがキラキラして見える。

まるで宇宙のなかに、ミオとあなたしかいないみたい。

SE：微妙にコズミックな音楽を小音で流します

幻想的な音楽まで、どこからか聞こえてくる。

それは宇宙の音楽。

アナタとミオの宇宙の音楽。

アナタはミオとひとつになつて、  
宇宙を作りたくて、たまらなくなる。

今からカウントダウンしていきます。

ゼロになると、アナタは今までに感じたことがないほどの

強い快感の中で、激しく絶頂ぜつちょうしてしまいます。

## 5

ミオの唇が、アナタの耳にキスをする。

尖った耳の先端せんたんをしゃぶられて、

アナタはうつとりしてしまう。

ミオの唾液だえきが額ひたいを伝つたい、鼻先はなさきを濡らし、

アナタはそれを、舌でそつと受け止める。

口の中に広がるミオの香りが愛いとおしいしい。

彼女のことを強く感じて、嬉しくなつて、

アナタのお腹の奥おなかが、さらにキュうっと切なくなる。

頭の中に小さな光の玉がぽつりと生まれる。

## 4

アナタの割れ目に、触手のようなおちんちんが押し当てられる。

愛液あいえきでとろけていたアナタの割れ目われめでも、

ぎゅうぎゅうで、きついはずなのに、

ゆるんだからだが、極太じょくぶとおちんちんをするりと飲み込んでしまう。

お腹の内側で、おちんちんがゆっくりと動き始める。

敏感びんかんで繊細せんさいな、お腹の奥おなかをまとわりつくようにして、

こすられて、重い快感の塊かたまりが、アナタのお腹おなかを突き上げる。

頭の中の光の玉が、だんだん温かくなつっていく。

ミオ  
(快感をこらえながら)

んはあつ♪ このおちんちん、  
相手の快感を受け取ることも、できるんですって。

私が感じれば感じるほどっ、アナタはもつと気持ちよくなる。  
アナタが感じれば感じるほど、んあつ♪ 私ももつと気持ちよくなるのっ♪  
素敵でしよう?

腰が動く。体が揺れる。

腰が動く。体が揺れる。

腰が動く。体が揺れる。

腰が動く。体が揺れる。

腰が動く。体が揺れる。

腰が動く。体が揺れる。

体が揺れるたび、重なり、ダブった快感が、

アナタの脳みそをチリチリと焦こがしがしていく。

頭の中の光の玉が、どんどん熱くなっていく。

揺れる。揺れる。

硬くなつた乳首ちくび同士が触れ合ふれあつて、

互いの胸をこすりあう。

おっぱいから伝わる快感さえも、

二重にじゅうになつてやつてくる。

ミオのおっぱいの気持ち良さが、

ふれるがわふれられる  
触れる側と触れられる側、その両方で伝わってくる。

ミオが感じやすいように乳首ちくびを当てる、  
ますます気持ちよくなつていく。

快感に、意識いしきがついていけなくなる。

快感が、あふれて、あふれて、あふれて、あふれて。  
ミオと溶け合つているかのよう。

ミオ、ミオミオミオミオミオ。

頭の中の光の玉が、燃えるように熱くなる。

1

揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。

快感が、世界が、渦巻うずまいていて。

あなたの周りでぐるぐると回り出す。

揺れる。揺れる。

揺れているアナタとミオの体からだのほか、  
世界の全てがぐるぐる回つて、

アナタはどこにいるのかもわからなくなる。

揺れる。揺れる。揺れる。揺れる。

回る。回る。回る。回る。

おちんちんで繋がつた割れ目つながつたわれめから、お腹おなかから、胸から、

たがいに触れ合う足と足から、  
絡めあつたしつぽから、全身から、

快感が溢あふれ出して。

アナタとミオの体からだがシンクロしたように、

ガクガクと痙攣けいれんし始める、

快感が、渦巻き、狂つた世界の中心から湧き上わきあがるがる。

いく。いつちやう。もう逝きそう。

しらないやつ。おおきいやつきちやう。

怖い。気持ちいい。怖い。気持ちいい。気持ちいい。気持ちいい。

イクイクイクイク。いつちやいそう。いつちやう。

頭の中の光の玉が、燃え盛る炎となつて、頭の中を埋めつくしていく。

ゼロ

絶頂ぜつぢょうする。

頭の中の炎が爆発し、快感がアナタの頭を吹き飛ばす。

それは快感のビッグバン。

快感に満たされた宇宙空間が、アナタの全身を飲み込んでいく。アナタと、ミオしか存在しない宇宙を作り出していく。

絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。

快感の綺羅星きらぼしが、アナタたちを祝福するように降り注ふりそそぐぐ。

絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。

体からだがからみ、星が生まれる。

イクイクイクイク♪

絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。

愛液あいえきがこぼれ、あふれ、天の川へと変わつていく。

絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。絶頂ぜつぢょうする。

体からだが溶け合い、星に命が生まれる。

絶頂する。絶頂する、絶頂する。絶頂する。

星々に住む、はかない命を眺め、抱きしめながら、

ミオとアナタは、これ以上なく幸福で、心地いい。キスをする。

幸福な宇宙に抱かれて、アナタの意識は、深く、暗い。遠いところへ沈んでいく。(FO)

SE：機械の音

ミオ  
おかえりなさい。で、どうでしたか？  
並行世界は？

あっちはどんな感じでしたか？

こちらでは座標しか確認できなくて。

ん？  
人間が憎い？  
人間、滅ぼす？

ちょ、ちょっと待ってくださいよ。

ほんの3分ほど、向こうに意識を飛ばしただけなのにつ。  
なんでそんなに現地に染まつてるんです！？

えっと、おちついて。

危害はくわえませんから。

ね。一日目を閉じて深呼吸でもして。

落ち着いて話し合いましょう？

さあ、一緒に。

すつて～。はいて～。すつて～。はいて～。

そうそんな感じで続けてみましょう。

今から数を数えていきます。いつつ数えると  
アナタはいつものアナタに戻ります

N

ひとつ

冷静に考えてみましよう

本当のアナタは二毛猫の女の子だったでしょ？  
みけねこおばかで発情しちゃうような人だったでしょ？  
はつじょう

本当の現実の自分自身のことをじっくりとよく考えてみてください

アナタにはもっと馴染んだ名前や からだ 体があつたはずです

ふたつ

意識いしきがはつきりとします

周りの匂いや音をじっくりと感じ取ってみてください  
自分が今どこにいるのか  
ゆつくりでいいので考えてみましょう

みつつ

アナタの からだ 体に力が戻ります。

手足の感覚かうかくがもどり

自由に動かすことができます。

手を握にぎつたり開ひらいたり足首あしづびを回まわしたり

手足ゆびさきを指先ゆびさきから少しづつでいいので動かしてみましょう

よつつ

意識いしきがよりはつきりとします

もうアナタは自分のことを全て思い出すことができます。  
今日の予定や明日のことも考えられるようになります。

いつつ

さあ、目を開けて。

アナタはもう、すっかりいつものアナタです  
まだ少しふらふらしたり動けなかつたら無理はせず  
しばらく横になつてみましよう徐々に元の感覚へ戻つていきます  
動けるようならその場で軽く飛び跳ねてみたり  
少し冷たいシャワーを浴びてみるのも  
とびはねて

意識いしきがしゃつきりしていいですよ♪

お疲れ様でした。

ミオ

それではこちらが、今回の治験ちけんの報酬ほうしゅうになります。

またよかつたら、お願ねいしますね♪

あつ。くれぐれも帰り道は気をつけてくださいね。  
お教えした道なら、安全に帰れると思いますけど。

おうちに帰るまでが治験ちけんですから。

ふふふ♪

それではまた。機会があればお会いしましょう。

SE：パソコンをいじる音

SE：ポッドの開く音

ミオ

いつからポッドがひとつしかないと錯覚さつかくしていたーー。

つてね♪

(ぼそっと)

それにしても、向こうの世界のあの子、かわいかつたなあ。  
また来てくれるかな♪  
にひひっ♪